



# IGC

## No. 18

### 事務局ニュース

### 第29回IGC事務局

電話：0298-54-3627  
ファクス：0298-54-3629

#### おみやげ物語 (2) 鉱石は素晴らしい？

国際学会のおみやげには鉱石がよく使われます。写真1は1979年9月にソ連のハバロフスクの第14回太平洋学術会議で配布されたものです。ウラジオストックの北方、沿海州のスズ鉱業の町、カバレロボの北北東16kmにあるダルネゴルスク鉱床から得られたヘデン輝石—珪灰石スカルンに、動物の角とメダルを付けた立派なものです。台板は52×153mm、厚さ7mm、白地の珪灰石に濃緑のヘデン輝石がリズムカルなバンディングをみせています。角は野生動物のものでしょうが、何の角か忘れてしまいました。

当時のハバロフスクでは橋や駅での写真撮影が禁じられていました。アムール河に面する公園でも駄目でした。鉱山町でも選鉱場などの設備がある所はとれません。その代りに自然が一杯でした。山にはブルーベリーが、里では短かい夏を謳歌するように草花やトマトが咲きそろう、その間を鶏や豚が走り廻って遊んでおり

ました。

写真2に紹介するものは、1986年の国際鉱床学連合第7回討論会の時のものです。これはスウェーデン北部の町、ルレオで開かれたために、北緯66°線以北の北極圏のスカンジナビア3国調査結果が大きな話題でした。またチェルノブイリ原発事故による放射能汚染がスウェーデンのエアボーン班によって直ちに調べられ、学会で速報された時でもありました。

この時のおみやげは銅鉱石で作られたものでした。ノルウェーの66°線から北方100kmにあるスリヂェルマでは1860年に銅鉱床が発見され、1891年から採行されていますが、1977年からは低品位鉱石を使用して記念品や装飾品が作られています。鉱床はカレドニア期(4.5億年前)の火山性層状銅硫化鉄鉱床です。

写真の記念品は直径83mm、厚さ5mm、真ちゅうのプレートで縁取りされており、地図と文字も同色の金文字で画かれています。黄鉄鉱が多量に含まれるほか、黄銅鉱、閃亜鉛鉱、磁鉄鉱などもみられます。写真で暗色

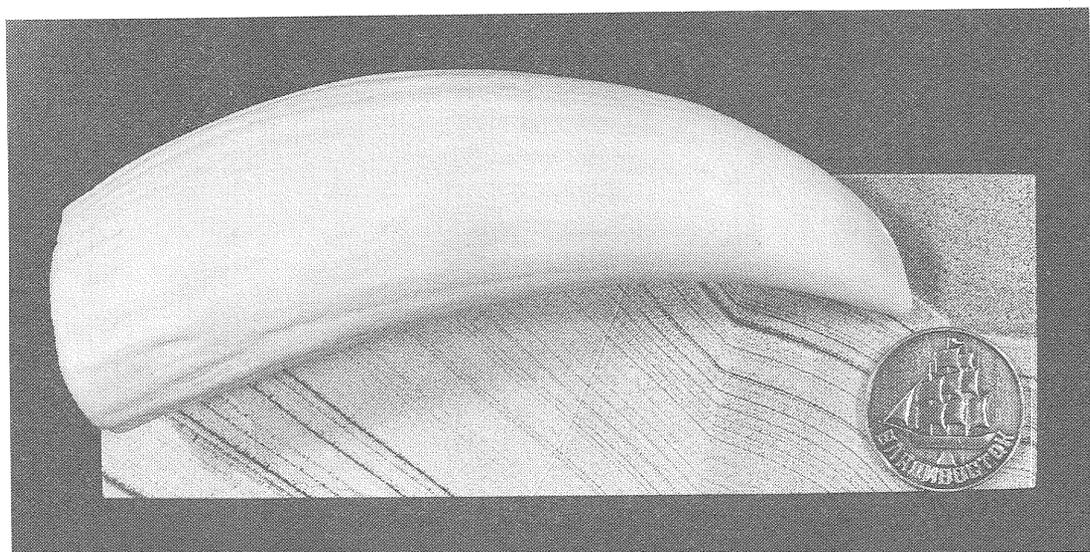


写真1 スカルン鉱石で作られたおみやげ(ウラジオストック製)。

の柱状鉱物は角閃石のようです。

写真3は1990年のカナダはオタワにおける第8回討論会の時のものです。この時は先カンブリア時代の縞状鉄鉱層が選ばれました。赤い赤鉄鉱+褐鉄鉱の色をした低品位部(H)に、銀灰色の磁鉄鉱バンド(M)、その低品位部である黒色バンド(B)が互層しております。サイズは50×72mm、厚さは12.5mm、左上のメダルはカナダのシンボルであるかえでの葉を3色で表わしたものです。

写真4はおみやげとして入手したものではありません。「こう言うおみやげがIGC用に作れたら」と筆者の願望をこめて紹介するものです。細粒両雲母花崗岩をくりぬいて黄色と赤の針を走らせ、ガラスカバーがはめ込んだ腕時計(直径34mm)です。石はアルプス造山帯からのものです。



写真2 ノルウェー産銅鉄石プレート。サウロ社製。実物大。

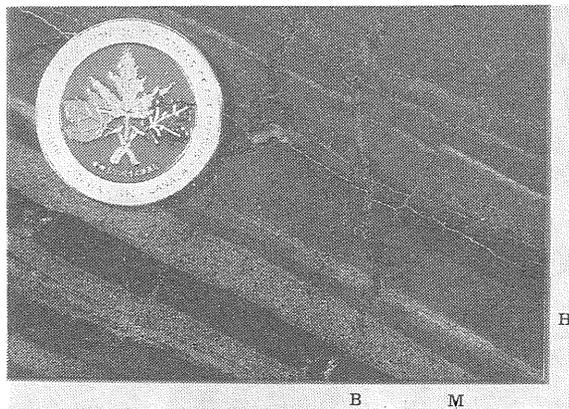


写真3 カナダ産縞状鉄鉱石のプレート。実物大。

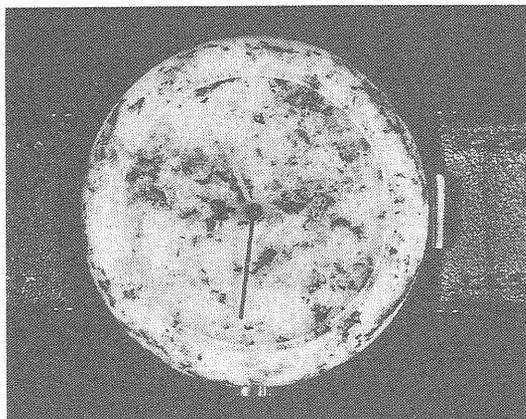


写真4 スイス産両雲母花崗岩の時計(1.4倍)。

#### セカンドサーキュラーが出来上がりました!

まだ入手していない方は下記までお申込み下さい。

〒305 筑波学園郵便局 私書箱65号

第29回 IGC 事務局

☎ 0298-54-3627 ファックス 0298-54-3629

#### 写真とロゴマーク募集中!

事務局ではIGCに向けて、日本の地質現象を紹介する絵はがきを作りたいと考えております。地質を表現している面白い写真をお持ちの方はIGC事務局までご一報下さい。また印刷物やTシャツにつけるロゴマークも募集中です。名(迷)案をどしどし事務局へ。